Center for Development of Higher Education, Kitasato University NEWS
Vol.5

Contents

1 —— 巻頭言
2 —— 第3回センター講演会報告
4 —— 著作権セミナー報告
5 —— FDへの取り組み（第５回）
FDのための必読書 －５
6 —— INFORMATION
・平成20年度北里大学新任教員研修会について
・平成20年度北里大学教員FD研修会開催について
・センター員の活動

巻　頭　言

高等教育開発センターへの期待

理学部教授　花岡和則

少子化に伴い「受験生が大学を選ぶ」時代を迎えるなか，大学を取り巻く環境は大きく変わり，大学はそれぞれの個性や特色を明確にし，これまで以上に質の高い教育を行うことが求められています。私が所属する理学部においても，数年前の受験生の急減を期に，受験システムや学科の在り方，教育内容など多岐に渡って真摯な議論がなされました。その中で得られた最も重要な結論は，これだけは絶対教えなくてはならない学問の基本（「物理ミニマム」，「化学ミニマム」，「生物ミニマム」）だけは確実に学生に伝えようという，きわめて当たり前の結論でした。それに基づいて，教育内容やカリキュラムについて再検討し，現在もその努力を続けています。恐らく，本学の各学部においても，大学を取り巻く環境の変化に対応して様々な取り組みが様々な形で真剣に行われていることと思います。しかしながら，大学全入時代を迎え，入学してくる学生たちの学習目標，学習意欲，基礎学力はますます多様化しつつあるのが現実です。

北里大学高等教育開発センターは，学士課程教育に対する要望を教職員および学生から幅広く吸収し，かつ，これまで各学部が独自で行ってきた教育力向上のための蓄積を結集しつつ，いっそうの充実を図るために研究開発を推進し，その成果を全学的に共有する役割を担うことを目標に平成19年に設置されました。高等教育開発センターの20年度事業計画重点項目の第一に，「初年次教育の在り方の調査・研究」（「大学教育への早期適応を促す初年次教育の到達目標とその実現に向けた具体的方法の検討」）が掲げられているのは，きわめて時宜を得たものであり，その成果に強く期待します。高等教育開発センターが，新入生の学びに対する動機付け・基本的な学習態度や学習スキルの獲得などを強力に支援することにより，各学部における専門教育へのスムースな移行に寄与するなら，北里大学全体の最も基本的な部分を担うことになり，その存在意義は極めて高いものであると思います。

理学部では，教員研修会に予備校関係者を欠かさず招いて，受験業界からの大学評価や受験生の動向分析を継続して行っています。その中で，北里大学への入学を希望する学生に何か特徴があるかと尋ねたところ，学内併願がきわめて少ないことが特徴的で，この点は他の私立総合大学にはない，本学の際だった特色であるとのことでした。このことは，生命科学を主体とする７つの学部と一般教育部で構成されている北里大学のそれぞれの学部の設立理念や教育目標が明確であり，またそのことが受験生によく理解されていることを示すものと思われます。この点は，北里大学のアドバンテージであり，今後も大事にすべきであると思います。

高等教育開発センターが「本学における学士課程プログラムや教材の開発，および教育活動の継続的な改善の推進と支援により，大学教育の充実と発展に寄与すること」という設置規程に則り，本学の最も基礎的な部分を担ってさらに発展することを心から期待します。

第 3 回　北里大学高等教育開発センター講演会報告

教育目標・人材育成目標を掘り下げる

平成 20 年 7 月 28 日（月）午後 5 時より，高等教育開発センター主催による 3 回目の講演会が，相模原校舎 L3 号館で開かれました。講演に先立ち，井上松久副学長による挨拶がありました。それに引き続いて行われた講演会は二部構成になっており，第一部は東京大学本部統括長鈴木敏之氏の「これからの高等教育の展望と私立大学への期待」と題された講演でした。鈴木氏はこの講演会の直前まで，文部科学省高等教育企画官，高等教育政策室長を務められており，まさに高等教育を行政面から支えてこられた方で，高等教育関係の学会で講師として，シンポジウム

講演の概要

第一部　教育目標・人材育成目標を掘り下げる

鈴木敏之氏

大学改革は，国の内外を問わず急速に進められている。日本においても，平成 16 年度からの国立大学法人化により，大学の自主性・自立性がより求められ，大学改革をすすめるきっかけとなった。それにより，大学は自らその質の保証と向上に努めるため，時代の要請に柔軟に対応した教育体制をつくり，それを多様な評価機関からの評価に耐えうるものとし，主体的な改善に努力する必要が生まれた。その結果，高度職業人の養成を強化するための大学院の充実，教員組織の改革が推進され，産学官連携，知的財産戦略の推進も視野に入れられるようになった。

そうしたことを背景に，各大学ではカリキュラム改革も行われ，授業の質を高める具体的な取り組みも盛んになった。単位互換，編入学など「開かれた大学」への取り組みも行われてきた。こうした改革の有効性を担保するため，自己点検・評価，教員の教育面での業績評価なども，従来に増して力が入れられている。

こうした日本の大学全体の現状の中で，特に私立大学が果たす高等教育，学士課程教育における役割と比重は，諸外国に比べても大きいと言わざるを得ない。それは，高等教育機関の数，そして在籍者の数からもいえることである。しかし少子化・人口減少社会の到来により，私立大学の経営は困難さを増している。2007 年度に定員割れを生じている私立大学が 40% 程度に達していることでも，その深刻さは理解されるであろう。そうした現状を打開する一つの方法として，様々な入学試験を実施する大学が増え，10 年前と比べると一般入試での入学者は減少し，その代わりに推薦入試やアドミッション・オフィス入試による入学者の割合が増えている。しかし大学は，受け入れた学生の質を高め，授業料負担に見合った学力の質的保証にも力を注がなくてはならない。そのためには，各大学が独自の教育目標・人材目標を掘り下げ，独自性を発揮していくことが不可欠となる。今後 5 年，10 年先を視野に入れた中長期の目標をしっかりと定めなくては生き残ることが出来ない。そうした教育目標・人材育成目標の指針が，今年度中教審でまとめられた「学士課程教育の構築に向けて」である。その中には，「学士力」と銘打って，学士課程教育が共通して目指す「学習成果」の参考指針が示されている。こうした指針を参考に，各大学独自の質の高い教育を目指した取り組みが絶対に必要なことと思われる。今まさに，私立大学の存在，教育投資，教育の質のあり方が問い直されようとしているといえる。

アンケートより

●海洋生命科学部が教育・研究を通じて，これまで行ってきた人材育成の言葉を使って「見える化」とすると第二部で説明されたようなことになると思います。これまでの本学部の教育・研究が間違っていなかったと，自信をもって言えます。（**海洋生命科学部**）

●石井先生が指摘したように「建学の精神」をカリキュラムや実際の教育にどのように反映させているのかについて，教員が共通の認識を持ち，継続的な努力が必要であると考える。（**獣医学部**）

●「学士力」の各項目が，各学部の教育理念・目的に包含されている必要があるのでしょうか？「学士力」の各項目を修得させるための科目配置，カリキュラム，評価法などの準備が必要なのでしょうか？（**薬学部**）

●学士教育の Outcome の解析が今後，重要視されているようです。学部間共通の理念にもとづいた Outcome 解析法に関し，高等教育開発センターが具体的に学内で議論する方向性を示すべきです。（**医学部**）

のパネリスト，コメンテーターとして，活発に発言されてこられました。

また第二部では，第一部で鈴木氏が指摘された，我が国の私立大学の現状と問題点を，薬学部教授石井邦雄氏に本学に特化して問題を掘り下げていただきました。石井氏は，本学の点検・評価室長を兼ねられ，現在の北里の現状に最も精通された方です。

第二部　北里大学における教育目標・人材育成目標の現状と課題

石井邦雄氏

先ほどの講演でも明らかにされた，我が国における私立大学の状況を踏まえて，本学が受験生から「選ばれる大学」であり続けるためには，北里大学はどのような姿勢を持つべきかを考えてみた。その結果，社会の動向と本学の現状を正しく認識し，具体的な将来像を描く，そして改革・改善の問題点を抽出し，計画的に実行していくことが必要である。またそれには，点検・評価の査定を受け，繰り返し軌道修正していくことが不可欠である。

まずは社会の現状認識であるが，大学は開かれた大学・個性的な大学であることが求められている。そして，専門性を有する幅広い教養を身につけ，高い公共性・倫理性を保持しつつ，積極的に社会を支え，社会を改善していく人材が，「21 世紀型市民」であると考えられる。それには「学士力」の求める能力が重要な要素となるであろう。

さて，そうした社会的状況において，北里大学全体が共有できるような一般的な教育目標・人材育成目標の設定は可能であろうか。それは何より，建学の精神に立脚した人間形成を目指すことである。そのためには，生命科学の総合大学というメリットを生かし，学部間連携にもとづく特色ある教育を行うことである。各学部はまず，高度専門職業人育成，幅広い職業人育成，総合的教養育のうちのいずれかえおその使命として行い，本学の学生にどのような「特徴」を持たせるかを考えるべきである。その際には，「関連分野を総合する能力」「マネージメント能力，リーダーシップ，チーム医療の担い手としての自覚と能力」「スペシャリストであると同時にゼネラリストである」，というようなキーワードが思い浮かぶ。それをどのように教育に生かし，学士力をつけていくか，限られた時間の中で，どのようなカリキュラムを編成し，「学士力」と「専門性」のバランスをとるか，大きな問題が横たわっている。その第一歩として，北里の建学の精神，北里精神を身につけさせるために，一般教育部で行っている自校教育「北里の世界」の充実が考えられる。つぎに生命科学の総合大学というメリットを生かして，チーム医療教育プログラムや農医連携を通じての特色ある教育を行うことが重要である。そうした全学の動きに目を配る役目は，高等教育開発センターが担うものである。

以上をまとめると，高度専門職業人の育成，幅広い職業人の養成，総合的教養教育という教育目標を掲げ，「21 世紀型市民」の能力要素である「学士力」を身につけさせる。それは，建学の精神に立脚し，生命科学の総合大学という，本学のメリットを最大限生かした学部間連携にもとづく特色ある教育を行うことに集約されていると考えられる。

●学部毎に共通のコンセンサスを得るべく，大学→学部→専攻の各ユニットにおいての意見交流→意見のとりまとめ，と法人（研究所）レベルでの再比較と方向づけが必要であると考えられる。**（医療衛生学部）**

●目標などはきちんと述べられているが，到達度はよくわからない。どんな尺度で測るか？測るものではない様な気もする。「学士力」も測るようなものではないと思う。学力というのは，いざというときに，本で調べたり考えたりしながら自分の力で解決できるような力があるかないかということのように思う。**（一般教育部）**

●今後考えていかなくてはいけない内容，方向性について整理をすることができました。専門職を育成していかなくてはいけない立場として，現在の基礎学力の低下，精神的な未熟さを持つ学生をバランスよく教育していくことが必要と考えます。そのためには，修業年限を考える時期になっているように考えます。（事務職員）

著作権セミナー報告

去る8月26日（火）午後1時から5時まで，第4回セミナーを開催しました。今回は，「教育著作権セミナー ―大学等における情報活用教育と著作権―」と題し，独立行政法人メディア教育開発センターの尾崎史郎教授を講師にお迎えし，教育にかかわる私たち教職員全員が知っておくべき著作権について解説していただきました。お忙しい時期にもかかわらず教員職員合わせて101人の方々にご参加いただきました。

セミナーでは，尾崎先生がパワーポイントと資料「著作権法の概要 ―ICT活用教育関係者が知っておきたい著作権―」を使って，具体例をまじえて詳しく解説して下さいました。情報技術はどんどん進歩しますが，著作権の整備はそれに追いついていません。うっかり著作権を侵害していたという事の無いようにしなければなりません。

セミナーの様子を記録したムービーをご覧いただけます。高等教育開発センターのホームページ http://www.kitasato-u.ac.jp/cdhe/ からリンクをたどって下さい。学内からのみ閲覧可能です。

セミナーレポート

「教育著作権セミナー ―大学等における情報技術活用教育と著作権―」に参加して

獣医学部講師　高岸聖彦

8月26日（火）の午後1時から，相模原キャンパスL3号館において，高等教育開発センター主催「教育著作権セミナー」が，メディア教育開発センター教授の尾崎史郎氏を講師に迎えて開催されました。私は，以前にも同様の研修講座を受講したことがあり，現状を再認識するよい機会であると考えて参加させていただきました。講義の内容は，大学関係者が知っているべき著作権の内容とインターネット等を活用した教育を行う際の留意点，さらには，著作権契約の概要にまで及ぶもので，時間をかなり延長して質問にも対応していただき，様々な情報を得ることができました。

著作権法は，授業で著作物を利用する場合には著作者の許諾が必要ないと定めているので，教員は，教材としての利用に著作権法の制限はないと漠然と考えているところがあります。しかし，これは，様々な資料を貼り付けたプリントを配布するといった昔ながらの授業形態に適用されるもので，近年頻繁に用いられるようになったプレゼンテーション形式の授業教材作成やサーバ上での資料公開などでは，許容範囲を逸脱している部分がかなりあるということは，あまり認識されていないと感じます。情報が電子化される時代となり，スキャナでの取り込みが「複製」であること，パソコン画面に表示することもスクリーンに表示することと同じく「上映」になること，サーバにデータを置くだけで「送信可能化」という著作権法の対象となってしまうことなど，法律の文面からは，なかなか理解しづらい部分があることを再認識しなければならないようです。

著作権法を守るということは，一言でいえば，「著作権者の利益を不当に侵害していない」ということだと言われています。教育関係者向けの著作権法に関する講演を聞きますと，講師の方によって許容範囲の解釈に違いがあったり，明言を避けられたりする部分があり戸惑います。大学が教材の利用について訴えられた判例がないので，判断が難しいそうです。今回の講義では，事例ごとに明確な判断を示していただけたのでよかったと考えていますが，正直なところ，漠然としている部分もまだ残されているように思います。著作権法に関しては，著作権者が訴えを起こさない限り法的な問題は生じませんが，裏を返せば，いつでも訴えられる可能性があるということでもあります。著作権法が，現代の情報化社会に十分に追いついていない以上，教員は，ある程度の自己責任を要求されるのでしょう。教材としての著作物の利用については，十分に注意すべきであると，改めて理解した次第です。

シリーズ　FDへの取り組み　第５回

看護学部におけるFD活動

看護学部FD委員長　森島直彦

看護学部における実質的なFDは，平成５年度の第１回教員教育研修会に始まり，爾来毎年８月の１～２日間，教育に関する様々な課題について話し合う教員教育研修会を継続的に実施し，討議記録を毎回報告書にまとめている。平成16年度には看護学部FD委員会が組織され，学部としてのFD活動の充実と拡大が図られるようになった。

教員教育研修会は，毎年テーマを設定し，主にそれに関する講演とグループディスカッションという形式で実施されてきた。平成15年度から４年間は連続してカリキュラムに関する議論を展開し，新しい看護学部のカリキュラムのコンセプト，特色，改善点などを抽出した。それらをベースに，新カリキュラム策定のために組織されたグランドデザイン委員会において構想を煮詰め，平成20年度から施行の新カリキュラムを構築するに至ったことは，正に看護学部全教員によるFDの成果である。

平成19年度は，大学院FDを看護学部全教員による教員教育研修会として実施した。「魅力ある大学院教育の構築に向けて」をテーマに，これからの大学院に求められている課題について，その対策と看護学研究科の目指す方向を模索し，現行の教育システムの改善や論文審査基準と審査方法の見直しなどの提言がなされた。また，本年５月に大学間国際交流協定が締結されたUCLAとの交流事業として，平成21年３月に予定されているUCLA教員による「看護研究の方法論」に関する集中セミナーは，大学院FDにも位置づけられ，FD委員会の協力により実施される。

FD委員会は，近年，進路の迷いや学業あるいは生活面での悩みを抱える学生が学部を問わず増加していることを重視し，平成19年３月，北里大学健康管理センター・学生相談室の中島香澄講師による「学生からカウンセラーへの（メンタルを中心とした）相談の実態と学部教員の学生への対応について」と題する講演会を開催した。本講演会は，悩みを抱える学生に対する共通理解と的確な対応を考えるよい機会となったと同時に，これからクラス主任や病院実習などを担当する若手教員たちに強い示唆を与えるものであった。

授業評価に関連する企画として，平成19年度後期から教員相互の授業聴講を開始した。聴講する教員は，授業日程から希望科目を選んで聴講し，その報告書を提出するという形式で実施した。授業聴講は平成20年度前期まで継続して実施され，全教員の80%の教員が，講義，演習あるいは学内実習を数コマ以上聴講した。これを受けて，平成20年度は「授業聴講を振り返って―よりよい授業の実施に向けて―」と題する教員研修会を開催した結果，授業聴講実施の継続と方法およびその活用に関する積極的な提案が得られた。なお，“学生による授業評価”については，平成13年度および14年度の研修会で議論され，その後自己点検評価委員会に引き継がれている。

また，平成19年度より看護学部独自の新任教員研修を，新しい教員が着任する度に実施している。事務方から説明される一般的な事項以外のより身近な事柄について，１人の新任教員に対し１人のFD委員がプリセプター的役割をもって説明や指導にあたり，これを１年間継続するものである。研修を受けた教員には概ね好評であり，今後も継続的に実施する。

教員の入れ替わりが多い看護学部においては，これらのFD活動は不可欠であり，今後もより充実したFD活動を推進する。

ＦＤのための必読書――５

バリー・J・ジマーマン他著（塚野州一他訳）
『自己調整学習の指導』

北大路書房
2,200円（税別）

学生に自ら学ぶ能力をつけさせるために，教師はどのような指導を行うべきかが解説されている。いわば教師のための指導書である。まず，学生が実りある学習成果を得るためには，時間の予定を立て，時間を管理するスキル，文章を理解し要約するスキル，ノートを取るスキル，テストの予想と準備のためのスキル，作文のためのスキルといった，様々な学習のための基本スキルを効果的に身につけることが必要となる。こうした能力の養成は，我が国の大学でも近年盛んに言われている，「初年次教育」で扱われているテーマの一つである。

この本では，カルビンとマリアという二人の学生をモデルとして，その指導を実際に行っていきながら，スキルを身につけさせる指導をするにはどうしたらよいのかを説明する。そして，各章の終わりには，教員が指導を振り返り，点検できるように，「自分への質問」が用意され，教師自身が指導をきちんと行える知識を身につけたかをチェックできるようにしてある。

本書は必ずしも大学教員向けに書かれたものではないが，いわゆる「初年次教育」を指導するためには，得ることが多い参考書といえよう。

INFORMATION

平成20年度北里大学新任教員研修会について

平成20年度の新任教員研修会は36名が参加して，9月2日，3日にクロスウェーヴ東中野で行われました。初日は小林裕志人事担当常任理事による講話から始まり，ついで，日本ODコンサルタンツのトレーナー近藤裕子氏による「学生の心に残る教員を目指して」という講習が行われました。この講習のねらいは，学生の満足度を高めるための，意識の持ち方と振る舞いを学ぶことと，学生の心に残る教員像とは何かを体験的に学び，印象の良い自己表現を身につけることでした。参加者は簡単なゲームを交え，楽しみながら実際に役立つスキルを身につけました。夜は夕食を兼ねての懇親会が催され，柴忠義学長・理事長や小林理事も参加され，参加者同士の友好もおおいに深まりました。

二日目は名古屋大学高等教育研究センター准教授の近田政博先生の講演とワークショップが行われました。講演では「学生を授業にどう巻きこむか」をデータを示しながら，分かりやすく話していただきました。またワークショップでは，近田先生ご自身が編集者のお一人である『チップス先生からの7つの提案　教員編』をテキストに，7グループに分かれて，それぞれが一つずつの提案の実行方法を考えてみるという課題が出されました。各グループが真剣に討議し，すぐには実現不可能なスケールの大きな提案や，明日からでも使えそうな提案など，前向きで，発展的な提案が次々に発表されました。

最後に高等教育開発センター教員によるまとめのコメント，小林理事の閉会の挨拶で，二日間にわたった研修会は終了しました。参加者は，互いに連絡先を教えあったり，写真を撮ったりと，再会を約束しながら，会場を後にしました。

平成20年度北里大学教員FD研修会開催について

平成20年度の教員FD研修会が，12月22日（月）に白金キャンパスで開催されます。参加の呼びかけは9月中旬に行われ，各学部・一般教育部より2～3名の教員が参加することになっています。今回の試みは初めてのもので，学生の教育に熱意をもって専念する教員の授業力を高め，授業法を検討することが目的となっています。午前中は，本学海洋生命科学部奥村誠一准教授による研究授業とグループ討議，午後は山形大学高等教育研究企画センターの小田隆治教授による授業法開発のための演習が予定されています。

◆ センター員の活動

・「大学生研究フォーラム2008」（京都大学高等教育研究開発推進センター／財団法人　電通育英会）
　8月2日，京都：鈴木，小島
・「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」第4回研究会（文部科学省先進的大学改革推進委託事業）
　8月10日，神戸：小島
・「大学連携によるコンテンツの共有・利用・UPO-NETの展開」（関東学院大学関内メディアセンター）
　8月13日，横浜市：小畑秀一
・「FDプログラムの構築支援とFDerの能力開発に関する研究」（国立教育政策研究所）
　8月17日～19日，横須賀：小島
・文部科学省第27回教育研究公開シンポジウム「学士課程教育の構成と体系化」（国立教育政策研究所／後援：日本高等教育学会）
　8月30日，東京：小島
・平成20年度北里大学新任教員研修会
　9月2・3日，東京：岡野，藤原，小島
・「ファカルティ・ディベロッパー入門講座」（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室／共催：国立教育政策研究所高等教育研究部）
　9月10・11日，東京：小島，福田宏
・日本教育社会学会第60回大会
　9月19～21日，上越：小島
・「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」第5回研究会（文部科学省先進的大学改革推進委託事業）
　10月4・5日，東京：小島
・「平成20年度進路指導連絡協議会」（神奈川県私立学校教育振興会）
　10月27日，横浜：小島（発表）
・第2回公開研究会「入学前教育の重要性」（島根大学　教育学部・教育開発センター）
　10月30日，松江：小島（発表）

編　集　後　記

新任教員研修会は大変よい雰囲気の中で行われ，研修が実りあるものであったとともに，学部・学院の枠を超えた友情の輪が芽生えたように感じられました。この研修会と12月のFD研修会の報告は，いずれ小冊子にまとめる予定です。

（岡野）

北里大学高等教育開発センターニュース
Center for Development of Higher Education, Kitasato University NEWS
Vol.5
発行日　2008年12月5日
発　行　北里大学高等教育開発センター
〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1
FAX：042-778-9543
発行責任者　鈴木　牧彦
表紙絵：古矢　鉄矢
北里大学高等教育開発センターWebサイト
http://www.kitasato-u.ac.jp/cdhe/